

■いよいよ学年末です！

2月も中旬となります。いよいよ学年末の確認テスト等がそれぞれの科目で実施されることと思います。これで年間の成績も確定しますので、計画的にしっかりと学習に取り組みましょう。

2月20日（金）にはいわき市文化センターで探究活動発表会が実施されます。各学年やコースの代表者の発表となります。最初の発表のときよりもかなりブラッシュアップされているかと思いますので楽しみにしましょう。大学等に進学しても、企業に就職しても、探究活動発表会のような形でプレゼンテーションをする機会が多くなることと思われます。今のうちから、パワーポイントを使って発表することに慣れておけば、かなり有効です。今回、発表者にならなかつた人たちも今年度自分で作成した内容を再確認し、少しでも磨きをかけておくようにしてください。

最後しっかりと生活を送って進級できるように充実させましょう。



■大学入学共通テストの平均点

1月17日（土）～18日（日）に実施された大学入学共通テストの本試験の平均点（確定平均点）を以下に示します。全科目で得点調整はありませんでした。今回で2回目となった情報Ⅰは昨年と比較し大きく平均点が下がったようです。また、物理が旧大学入試センター試験も含めて過去最低だったとのことです。1・2年生のみなさんで大学入学共通テストを利用しての進学を考えている人は、自分の志望校に対して、どの程度の得点を確保しておかなければならぬかも含めて、確認しておくようにしましょう。



科目名	国語（200）	地理総合、地理探究（100）	歴史総合、日本史探究（100）	歴史総合、世界史探究（100）	公共、倫理（100）
平均点	116.37	61.87	62.29	60.88	64.24
科目名	公共、政治・経済（100）	数学Ⅰ、数学A（100）	数学Ⅰ（100）	数学Ⅱ、数学B、数学C（100）	物理基礎（50）
平均点	63.59	47.20	28.53	54.52	34.68
科目名	化学基礎（50）	生物基礎（50）	地学基礎（50）	物理（100）	化学（100）
平均点	28.58	36.46	28.17	45.55	56.86
科目名	生物（100）	地学（100）	英語リーディング（100）	英語リスニング（100）	情報Ⅰ（100）
平均点	55.01	44.29	62.81	54.65	56.59

■ 3年生の合格体験記

3年生の合格体験記ですが、今回は茨城県立医療大学に合格した藁谷茉央さんと東海大学に合格した和田守平君（いずれも3年4組）です。ぜひ参考にしてください。

【合格体験記】 荦谷茉央さん（3年4組）

茨城県立医療大学保健医療学部看護学科合格（学校推薦型）

私は幼少期の経験から看護師に憧れ、1年生のときから茨城県立医療大学を目標として勉強に励みました。私は体操部に所属し、放課後はすぐに練習があったため勉強時間の確保に苦労しました。また、県外からの通学ということもあり、帰宅が遅くなりがちで毎日が時間と体力との戦いでした。そこで、電車の中やお風呂などの時間を活用し、暗記を中心とした学習を行っていました。人より時間が少ない分、周りの人たちから遅れをとらないように努力しました。



3年生になってからは、本格的に受験対策が始まり、志望理由書、総合問題、小論文、面接の準備を始めました。特に小論文と面接に不安を感じていたため、たくさんの先生方にアドバイスを頂き、繰り返し練習を行うようにしました。入試本番はこれまでと傾向が大きく変わり、予想外の問題が多く出題されましたが、私の課題だった時間配分に気をつけて取り組むことができました。

合格の知らせを受けたときは喜びと同時に、これまで支えてくださった家族や友達、先生方への感謝の気持ちでいっぱいでした。自分の力だけでは絶対に成し得なかつたと強く感じています。お世話になった方々に「合格」という良い報告ができ、心から感謝の気持ちを伝えられたことが何よりも嬉しかったです。

私は今回の受験を通して、日々の努力を積み重ねることの大切さを学びました。大学でも周囲への感謝の気持ちを忘れず、将来の目標に向かって努力を続けていきたいです。

【合格体験記】 和田守平君（3年4組）

東海大学海洋学部水産学科合格（学校推薦型）

私は東海大学海洋学部に公募制推薦で合格することができました。ここでは、私が合格するために取り組んできたことや受験を通して経験したことを書きたいと思います。これから推薦で受験する方の参考になれば幸いです。

推薦入試では、面接や小論文など、大学ごとに求められる内容が異なります。の中でも特に重要だと感じたのが志願理由書です。志願理由書は合否を左右する重要な書類であり、自分がどのような考え方を持ち、なぜその大学を志望しているのかを伝える役割があります。本筋としては、「ある出来事をきっかけに将来こうなりたいと考え、そのために〇〇を学べる貴学で具体的にこのような力を身につけたい」という流れで書くと、内容が整理しやすく、読み手にも伝わりやすいと思います。

そこから内容を肉付けしていくのですが、これが最も難しいところでした。文字数がなかなか埋まらなかったり、逆に書きすぎてしまったりすることもあると思います。そのためにも、時間に余裕のあるうちに、志望大学のオープンキャンパスに参加し、大学の特色や学びの内容を知ることが大切だと感じました。また、専門性の高い分野を志望する場合には、その分野についてある程度の知識や体験を持っておくことが重要です。私自身、海洋という専門的な分野を志望していたため、3つほどの大学のオープンキャンパスに参加し、様々な水族館を訪れました。水産系の仕事に携わっている家族から、現場での話を聞いたり資料を見たりすることで、教科書では学べない水産業や海洋環境の現状について理解を深めました。こうした経験があったことで、志願理由書に具体性を持たせることができ、面接や小論文対策にも大いに役立ちました。



面接と小論文はこなした回数に比例してどんどん上達するので、特に小論文は早めに手をつけるべきです。要約型やテーマ型など大学によって形式は異なりますが、テーマ型の場合は学部に関連した話題や近年の注目される社会問題（AI や少子化）などをテーマにして書いてみましょう。最初のうちは時間までに終わらなくても構ないので最後まで書き上げてみることが大事です。文の構成に慣れてしまえば、あとは知識勝負みたいなものです。日頃からニュースを見たり新聞を読んだりしておきましょう。

面接に関して、面接官は志願理由書と調査書などの提出書類から、基本的なことが質問されます。そのため、その内容を十分に理解し、自分の言葉で説明できるようにしておくことが大切です。また、資格や部活動の実績などがあるとかなり有利です。私は英検 2 級を入試前までにギリギリで取得し、苦手科目という質問に対応することができました。推薦とは別ですが、英検は一般入試で英語の得点免除や受験の条件にされることもあるため、持っておくことを強く勧めます。加えて、ある程度質問のヤマは張っても良いと思います。私も數十個の質問と回答を作っていました。

ここまで私が入試に向けて取り組んできたことを書いてきましたが、結局本番では何が起きるか分かりません。ちょっとしたトラブルが起こる可能性もあります。それでも、これまでしっかりやってきたことは必ず身についています。あとは運だけです。これから受験を目指す方は自信を持って頑張ってください。

■第102回箱根駅伝

今年も1月2日（金）から3日（土）にかけて、お正月恒例の箱根駅伝が開催されました。戦前は「混戦模様」との予想もありましたが、青山学院大学が往路、復路とも制し、史上初となる2度目の3連覇、通算9回目の総合優勝を達成しました。

終わってみれば、「やはり青山学院大学の圧勝だった」という印象がありますが、1区はトップの國學院大学から1分19秒遅れの16位で、2区から4区で徐々に追い上げていく形になりました。それでも、4区終了の時点で、トップとは3分24秒の差がありました。5区が始まった段階の実況では、「原晋監督は黒田朝日選手で3分30秒差は逆転可能と話していた」との情報が流れました。しかし、「山の名探偵」こと工藤慎作選手を擁する早稲田大学が5区でトップに立ったときには、「青山学院大学の往路優勝はさすがに無理」と思っていた人が多かったのではないでしょうか？

それにしても、青山学院大学のエースで主将の黒田選手の走りは圧巻でしたね。他大学の中には、「エース区間の2区で1時間5分台の走りをされるよりも山で大差をつけられる方がきつい」と、黒田選手の5区起用を予想していたところもあったようですが、あそこまで異次元の走りをするのは誰も予想できなかっただけです。それまでの区間記録を1分55秒も上回る大記録を作りました。原監督は黒田選手について、「箱根駅伝の最高傑作」という賛辞を送っています。「箱根の山に朝日がのぼる」。原監督は待ってましたとばかりに5区で黒田選手に声かけをしていました。原監督の「輝け大作戦」が見事にはまった格好です。ちなみに、黒田選手は「僕が“シン・山の神”です」と中継した日本テレビのインタビューで答えていましたが、この「シン」には、「新」だけでなく、「真」の意味も込めての発言だったよう筆者は感じました。

優勝争いの一角を占めると思われた駒澤大学は、最終的に6位という結果でした。佐藤圭汰、山川拓馬、谷中晴の主力3選手が12月に入ってから相次いで故障し、思うようなオーダーを組めなかつたことが敗因だったようです。本来であれば、エースの佐藤選手を2区、山上りに適性のある主将の山川選手は5区に配置して、「往路で波を作り、総合優勝を！！」という目算があったようですが、厳しい戦いを強いられることになりました。

そんな中でも、往路は3区までは順調なレースで4区では一旦3位まで躍り出ました。しかし、その4区の選手が途中アクシデントに見舞われブレーキとなり、区間19位となつたことが大きく響きました。結局往路でトップの青山学院大学とは4分52秒差になつてしまい、総合優勝は絶望的になりました。

復路で6区の伊藤蒼唯選手が区間2位と復路優勝を目指して飛び出しましたが、その後はなかなか前を行く大学との差を縮められず、むしろ広がってしまいました。そんな中、最終10区の佐藤選手は、故障で練習不足だったにもかかわらず、昨年の7区に続いて区間新記録を打ち出しました。不安を抱えながらも、「学生最強ランナー」としての意地を見せた走りは印象に残りました。

今年総合優勝すれば30年ぶりだった中央大学、スーパールーキーの加入もあり、「往路は絶対に優勝するだろう」と前評判の高かった早稲田大学、今大会総合2位とこれまで最高の成績を残した國學院大学が来年も優勝争いをするだろうと原監督は予想していました。「もちろん、青山学院も！！」。今後、青山学院大学がどこまで記録を伸ばしていくのか気になるところです。ちなみに、総合優勝の最多回数は14回、連勝記録の最多は6年連続。いずれも中央大学が持っている記録です。果たして来年は？ 文責：進路指導部 清水聖

